

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算 支出科目 款：農林水産費 項：林業費 目：県産材流通対策費

事業名 中大規模木造建築の技術支援事業費(R8分)

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 県産材流通課 加工流通係 電話番号：058-272-1111(内4364)

E-mail：c11545@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,000 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計									
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	1,000	500	0	0	0	0	0	0	500
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」(令和5年4月1日施行)に基づき、非住宅・中高層分野(中大規模建築物)の木造化、木質化に向けて、建築物の製品及び性能の向上、新たな技術開発には、建築などを構成する部材の強度試験を通じて実証が必要である。

・現在、森林文化アカデミー敷地内にある「木材開放試験室」は、住宅部材の試験研究を行うほか、外部事業者へ有償試験を開放しているものの、中大規模木造建築の規模の重大化、重量化、階高さの増大に伴い、現状の「木材開放試験室」では、実証試験等の実施が困難となっている。

(2) 事業内容

「木造開放試験室」のあり方・再整備も含め、中大規模建築物の木造化、木質化に必要な本県の技術支援及び試験研究体制を再構築する。

- ・令和6年度：準備検討会の設置(課題整理、役割分担、構想骨子案の策定)
- ・令和7年度：基本構想策定外部有識者会議の開催、基本構想の策定、研究施設現地調査等
- ・令和8年度：基本計画の策定 ※第5期岐阜県森林づくり基本計画に位置付け
- ・令和9年度以降：実施設計、施設整備、運営委員会

(3) 県負担・補助率の考え方

中大規模建築物の木造化、木質化に必要な本県の技術支援及び試験研究体制を再構築する取組みであり、県自ら実施することが妥当。

(新しい地方経済・生活環境創生交付金(第2世代交付金))

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	234	構想策定委員会委員への謝金
旅費	484	委員への費用弁償、業務旅費(現地調査費用)
需用費	21	消耗品費、会議費
役務費	12	切手、郵送代等
使用料	29	会議室使用料
委託料	220	基本計画イメージ図作成
合計	1,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画(R4~R8)

都市の木造化・脱炭素社会の実現に向けた県産材の需要拡大

(2) 国・他県の状況

なし

(3) 後年度の財政負担

令和8年度以降も継続的に実施

(4) 事業主体及びその妥当性

県の試験体制を構築する事業であるため、県が実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

中大規模木造建築物の木造化・木質化に必要な技術支援及び試験研究体制について、第5期岐阜県森林づくり基本計画（令和9年度～令和13年度）の重点プロジェクトへ位置付けるための基本構想の策定を行う。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

構想策定のための有識者による意見交換や現地調査費要であり、指標を設定することができない。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和5年度	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和6年度	<p>中大規模木造建築物の木造化・木質化に必要な技術支援及び試験研究体制を検討するための準備検討会の2回開催し、構想骨子案を策定した。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	中高層建築物及び非住宅建築物への県産材の需要拡大に資する、本県の技術支援・試験研究体制をの再構築を行うために必要な事業である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	今後、戸建て住宅の建設戸数の減少が見込まれる中、新たな需要先として非住宅建築物等への拡大を目指すものであり、事業の有効性は高い。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	外部有識者による委員会を県主催で行い経費の削減に努めることで、事業の効率化を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 中大規模木造建築の規模の重大化、重量化、階高さの増大に伴い、現状の「木材開放試験室」では、実証試験等の実施が困難となっており、これらに対応できる施設整備が必要である。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 基本構想の策定を行い、第5期岐阜県森林づくり基本計画に位置付けるとともに、技術支援及び試験研究体制の再構築を進める。
--